



「まいにち笑顔 みんなが笑顔」



生きているということ

昨日、3月11日は何があった日か知っていますか。昨日のニュースでもやってきましたし、2月の終わりに行った「災害体験者の方の話を聞く会」でも話しましたが、13年前の3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生しました。校長先生は、その時6年生の担任で、6時間目に学年スポーツ大会をしていた最中でした。校庭にいましたので、6年生全員を校庭の真ん中に集めて座らせました。初めて体験する大きな揺れでしたが、けがをした人はいませんでした。ただ、校舎の一部が欠けて落ちてきたり、教室内では時計が落ちたりしていました。

地震は「いつ起きてもおかしくない」と言われています。「いつ」でしょうか。それは、「いつか起きる」という意味ではなく、「明日起きてもおかしくない。」「今日おきてもおかしくない」という意味で、もしかたら「今」起きるかもしれないのです。今年の1月1日に起きた「能登半島地震」もそうです。誰もが「今」起きるとは思っていなかったはずです。

東日本大震災で実際に被災した方が、こんなことを言っていました。

3月11日を忘れないようにしよう、ということは、よく言われます。しかしその日は、忘れないようにする日ではなく、忘れられない日です。忘れたいのに忘れられない日が3月11日です。いちばん忘れちゃいけないのは、なんてことない、ほんとうになんでもない日々です。幸せだったはずの、前の日なんじゃないかと思います。

（「僕たちの花火の連絡、見えますか」<https://www.1101.com/schopdan/>）

ここで少しだけ映像を見てみましょう。

生きているということ 今生きているということ
泣けるということ 笑えるということ
怒れるということ 自由ということ

（https://www.youtube.com/watch?v=yLcAuy8_xMo 1:50～）

聞き覚えがありますよね。これは谷川俊太郎さんの「生きる」という詩の一部です。「泣ける」「笑える」「怒れる」普段、当たり前のように一日の中で起こることです。先日の6年生を送る会では、6年生が自分たちにとっての「生きているということ、今いきているということ」を発表してくれました。その中に、こんな言葉がありました。

「友達がいるということ」「学ぶということ」「みんなで話せるということ」
「遊べるということ」

今日は、本当に何でもない日かもしれませんが、この「当たり前の幸せ」を大切にす
る日としていきましょう。